

東京都写真美術館の事業内容

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約2万4千点の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展・映像展のほか、維持会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との共催展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会やカフェ・トーク、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、子どもワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ガイドツアー、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者会見、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）。

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画を先駆けて上映を行う。

10. 維持会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人維持会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開させる。



東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

東京都写真美術館館長
福原 義春

**「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、
センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」**

<過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子どもや若者達に積極的に文化発信を行います。

<質の高い写真・映像文化と出会う美術館>

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

<写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

<写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>

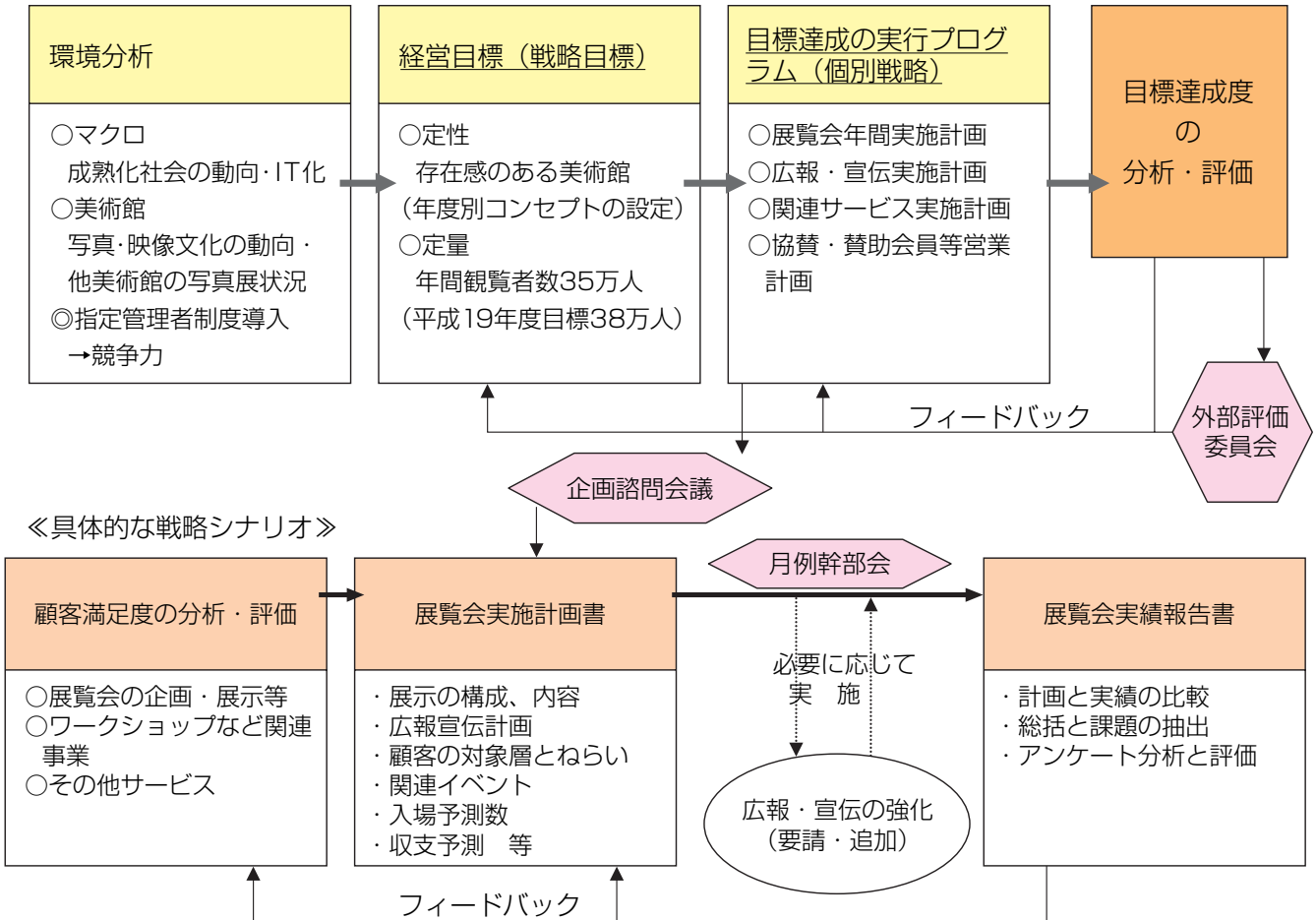
国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

<開かれた美術館>

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

写真美術館における戦略的運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



経営目標の設定

《 定性目標 》 **「存在感のある」美術館運営**
 とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気
 ○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。
 ○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

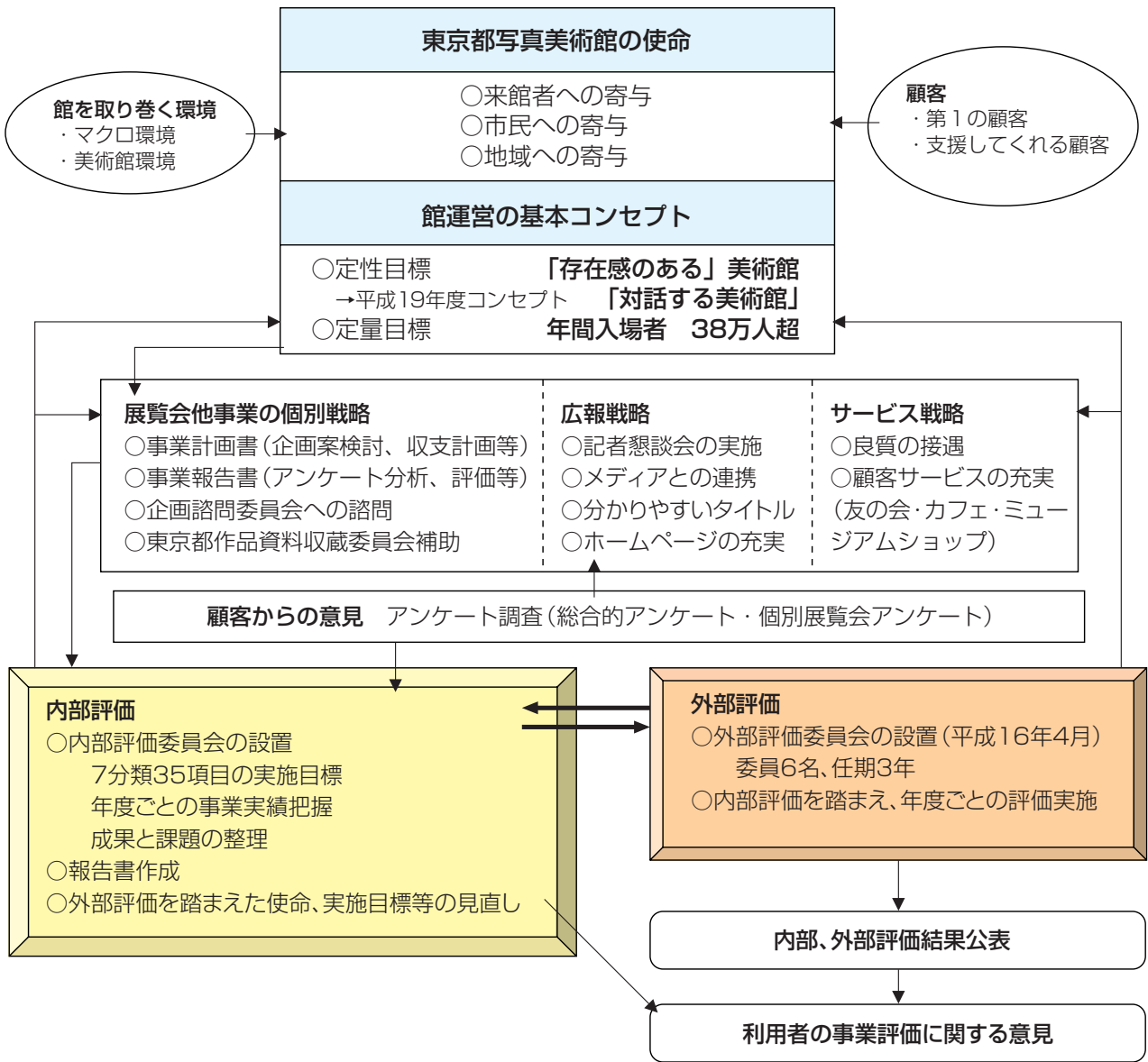
★年度別コンセプト

平成13年度 「静かなにぎわい」	平成17年度 「信頼される美術館」
平成14年度 「写真(映像)とは何かを伝える」	平成18年度 「判りやすく説明する美術館」
平成15年度 「感動を与える」	平成19年度 「対話する美術館」
平成16年度 「明るく迎える美術館」	

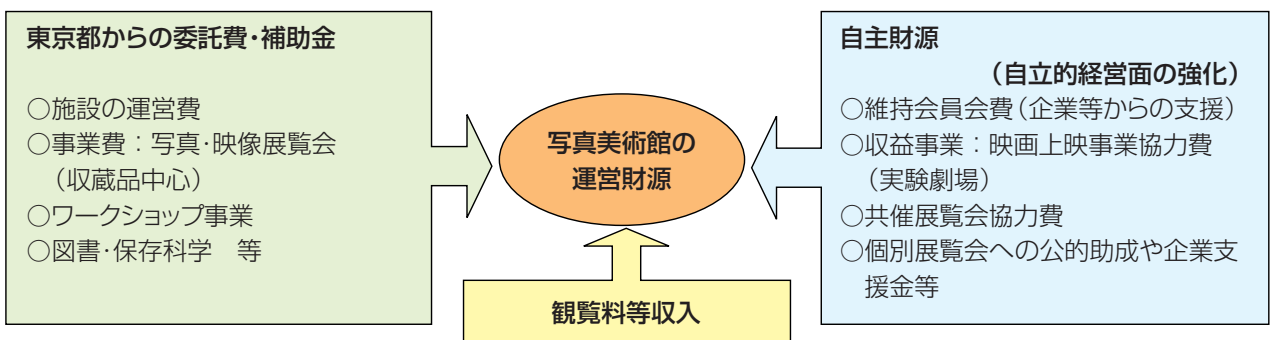
《 定量目標 》 **年間入館者 35万人超**

平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
227,183人 目標8千人増加 →開館以来最高	364,307人 目標30万人超→ 前年度比1.6倍	413,289人 目標30万人超→ 前年度比1.1倍	431,521人 目標35万人超→ 前年度比1.04倍	441,705人 目標35万人超→ 前年度比1.02倍	443,107人 目標38万人超→ 前年度比1.01倍	365,871人 目標38万人超→ 前年度比0.83倍

館運営と事業評価の概念



運営財源





企画諮問会議

開催日 平成19年7月18日（水）
議 題 平成18年度の事業実績及び平成19年度の活動方針説明
平成22年度の展覧会企画提案

外部評価委員会

第1回外部評価委員会

開催日 平成19年6月28日（木）
議 題 東京都写真美術館ミッションに基づく新評価基準等について審議

第2回外部評価委員会

開催日 平成19年10月17日（水）
議 題 外部評価の運営方法及び平成18年度の内部評価について審議

第3回外部評価委員会

開催日 平成19年12月19日（水）
議 題 平成18年度事業全部門について総括と最終評定を討議

作品資料収蔵委員会

開催日 平成19年11月13日（火）
議 題 平成19年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

第1回記者懇談会

開催日 平成19年5月16日（水）
議 題 平成18年度の実績報告及び平成19年度の活動方針説明
1階カフェ「サンプル・クレール」にて懇談

第2回記者懇談会

開催日 平成20年1月18日（金）
議 題 平成18年度事業外部評価の報告
平成19年度及び平成20年度新企画の紹介
平成19年度新規収蔵作品の紹介・実見
1階カフェ「サンプル・クレール」にて懇談

展覧会事業

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・共催展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

【収蔵・映像展】

世界でも有数の約2万4千点の写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づく館独自の視点で展覧会を企画した。珠玉の名作を順次紹介すると共に、展覧会をパッケージ化し、写真美術館発の他館への巡回展を行った。

① 写真コレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、「昭和」をテーマに約半年にわたって4部構成で連続展覧会「昭和 写真の1945-1989」を開催した。図録の代わりに一般書籍としてとんぼの本『昭和の風景』を出版し、好評を得て増刷した。また、2008年に新潟県立万代島美術館に巡回が決定した。

② 重点収集作家・新規重点収集作家の展覧会

「日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する」という写真作品収集の基本方針に基づき設定された重点収集作家、土田ヒロミの個展を開催し、この展覧会で土田ヒロミ氏に第27回土門拳賞が贈られた。この展覧会は2008年に福井県立美術館に巡回予定である。この他、平成18年度の重点収集作家展である「球体写真二元論 細江英公の世界」は平成20年度に尼崎市総合文化センターに巡回が決定した。細江英公氏は第49回毎日芸術賞を受賞した。

③ 映像展の展開

過去から現代まで映像文化史を概観する幅広いコレクションを活用し、現代映像作家と文学者がコラボレーションするという、今までになかったクロスオーバーの実験的な展覧会「文学の触覚」展を開催した。文芸誌『群像』の全面協力を得て、図録の代わりに特集号の抜き刷りを頒布した。

【自主企画展】

維持会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を、国際動向もふまえて実施した。

① 中堅作家の個展

現在最も活躍の著しい旬の作家の個展を開催する新シリーズとして「鈴木理策：熊野、雪、桜」を開催した。図録は一般書籍として出版した。この展覧会で鈴木理策氏は日本写真協会年度賞を受賞した。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

写真の広範な分野についての調査研究に基づく展覧会として「水越武写真展 大地への想い」を開催した。この展覧会は豊橋市美術館他との共同企画として開催された。

また平成18年度の自主企画展のうち「中村征夫写真展 海中2万7000時間の旅」が秋田市立千秋美術館、安曇野市豊科近代美術館、福井市美術館、高崎市美術館へ、「石内都：mother's」がオーストラリア シドニーのニューサウスウェールズ州立美術館へ、さらには「地球の旅人」が長野県松本市市制100周年記念事業として松本市美術館へと巡回した。

平成19年度末には「シュルレアリスムと写真」展を開催し、雑誌『アヴァンギャルド』が特集号を組み、それを図録の代わりにした。またこの展覧会は美術館連絡協議会からの助成を獲得し、それによる記念シンポジウムを平成20年度に開催予定である。

③ 国内外の機関との協力および調査・研究に基づく展覧会

国内外の関係機関とのネットワークを生かした展覧会として、マグナムと協力し、「マーティン・パー写真展 FASHION MAGAZINE」を開催した。マーティン・パー氏は日本写真協会賞国際賞を受賞した。

④ 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘に努め、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるシリーズ第6回として時間をテーマに「日本の新進作家 スティール/アライヴ」を開催した。この展覧会の出品作家の一人、屋代敏博氏は日本写真協会賞新人賞を受賞した。

⑤ 重点収集作家の個展

重点収集作家である東松照明の個展「Tokyo 曼陀羅」を開催した。

【共催展】

東京写真月間の共催や、写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、ヴァリエーションに富む展覧会を開催した。

展覧会事業
収蔵・映像展

夜明けまえ

知られざる日本写真開拓史 I. 関東編
Dawn in Japanese Photography [I. Kanto district]

期 間 平成19年3月10日(土)～5月6日(日)
32日間(平成19年4月1日以降の開催日数)
巡 回 展 群馬県立館林美術館
(平成19年6月30日(土)～9月9日(日))
主 催 東京都 東京都写真美術館/読売新聞東京本社/美術館連絡協議会
協 賛 花王株式会社
協 力 日本大学芸術学部
出品作品数 307点(会期中展示替えあり)

日本全国の美術館、博物館、資料館等の史料保存機関が所蔵する幕末～明治期の写真を調査し、体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」シリーズ。第一弾となる本展では、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料を「1. であい」「2. まなび」「3. ひろがり」の三部構成で展覧。近年、重要文化財に指定されたエリファレット・ブラウン・ジュニア撮影の「田中光儀像」(ダゲレオタイプ)のほか、明治期のアンプロタイプをはじめ、調査によって所蔵が明らかとなった関東圏の多くの未公開作品など、今日まで現存する貴重な古写真を展示した。今後本シリーズは「Ⅱ. 中部・関西・中国編」、「Ⅲ. 四国・九州編」、「Ⅳ. 北海道・東北編」、「総集編」と展開する予定。



昭和 写真の1945-1989

【第1部】 オキュパイド・ジャパン (占領下の日本) 昭和20年代
SHOWA : Photography 1945-1989 [Part 1] Occupied Japan

期 間 平成19年5月12日(土)～6月24日(日)
38日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 恵比寿ガーデンプレイス株式会社/フォト・ギャラリー・インターナショナル/株式会社新潮社
出品作品数 125点(36作家)、ほか関係資料15点

本展「昭和 写真の1945-1989」は、太平洋戦争が終わった1945(昭和20)年から昭和が終わった1989(昭和64)年までを幅として、東京都写真美術館のコレクションのみによって、4つのパートに分けて展開した。その第1部では、昭和20年代(1945～55)に撮影された作品で構成した。そこには、戦禍の廃墟からアメリカ軍による占領をへて、民主主義を掲げてスタートする「新生日本」の現実を直視した写真家たちが、時代の光景だけではなく、時代に流れる感情までも鋭くも豊かなまなざしで切り取っていることを示すことができた。



昭和 写真の1945-1989

【第2部】ヒーロー・ヒロインの時代 昭和30～40年代 Part1
SHOWA: Photography 1945-1989[Part 2] Heroes and Heroines

期 間 平成19年6月30日(土)～8月19日(日)
44日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 恵比寿ガーデンプレイス株式会社/フォト・ギャラ
リー・インターナショナル/株式会社新潮社

出品作品数 128点

スポーツ選手から俳優、歌手、政治家まで、様々な煌めくヒーロー・ヒロインたちが活躍した昭和30～40年代。第2部となる本展では、当館収蔵作品よりポートレート写真というジャンルを通して、エネルギーに満ちあふれたヒーロー・ヒロインの姿を捉えた写真家を紹介。昭和30～40年代という時代を振り返るとともに、メディアが果たした役割を探った。

昭和 写真の1945-1989

【第3部】高度成長期 昭和30～40年代 Part2
SHOWA: Photography 1945-1989[Part 3] The Era of High-Speed Growth

期 間 平成19年8月25日(土)～10月14日(日)
45日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 恵比寿ガーデンプレイス株式会社/フォト・ギャラ
リー・インターナショナル/株式会社新潮社

出品作品数 137点

第3部は「高度成長期」と題して、昭和30年代、40年代に撮影された写真を紹介した。この時代は東京オリンピックや大阪万博など明るい出来事が印象的だが、繁栄の陰で安保闘争や公害問題など、現在でも解決のついていない問題が起きた時期であった。変貌する光景の中に、この時代の明るさと暗さが交差していく様を見ることができた。急速に価値観が変わっていく時代を写真家たちのそれぞれの表現で展示した。



【第2部】ヒーロー・ヒロインの時代

昭和 写真の1945～1989


SHOWA: Photography 1945-1989 [Part 2] Heroes and Heroines

平成19年度 東京都写真美術館収蔵展

2007年6月30日(土)～8月19日(日)
東京都写真美術館3階展示室

開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで)入館は開館30分前まで
休館日 1月1日(祝日)、7月1日(祝日)、7月15日(祝日)、7月16日(祝日)
観覧料 一般500円/学生400円(20歳以下)/小学生、65歳以上200円
※ 20歳未満の観覧料は、学生、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人、65歳以上の観覧料と同額です。
※ 観覧料は、当日現金での支払いとなります。当日現金での支払いには、現金書留料がかかります。
※ 観覧料は、当日現金での支払いとなります。当日現金での支払いには、現金書留料がかかります。
主催 東京都 東京都写真美術館 協賛 凸版印刷株式会社
協力 株式会社恵比寿ガーデンプレイス/フォト・ギャラリー・インターナショナル/新潮社

www.syabi.com



【第3部】高度成長期

昭和 写真の1945～1989

SHOWA: Photography 1945-1989 [Part 3] The Era of High-Speed Growth

平成19年度 東京都写真美術館収蔵展

2007年8月25日(土)～10月14日(日)
東京都写真美術館3階展示室

開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで)入館は開館30分前まで
休館日 1月1日(祝日)、7月1日(祝日)、7月15日(祝日)、7月16日(祝日)
観覧料 一般500円/学生400円(20歳以下)/小学生、65歳以上200円
※ 20歳未満の観覧料は、学生、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人、65歳以上の観覧料と同額です。
※ 観覧料は、当日現金での支払いとなります。当日現金での支払いには、現金書留料がかかります。
主催 東京都 東京都写真美術館 協賛 凸版印刷株式会社
協力 株式会社恵比寿ガーデンプレイス/フォト・ギャラリー・インターナショナル/新潮社

www.syabi.com

土田ヒロミのニッポン

—都市化・バブル・新世紀・まつり・ヒロシマに見る時代と人々。
Tsuchida Hiromi's Nippon
-Times and People: Urbanization, the bubble, the millennium, the festivals, Hiroshima

期 間 平成19年12月15日(土)～2月20日(水)
55日間
巡 回 福井県立美術館
(平成20年5月2日(金)～5月25日(日))
主 催 東京都 東京都写真美術館 産経新聞社
協 賛 日鉱金属株式会社/株式会社ニコン/ニコンカメラ
販売株式会社/エプソン販売株式会社/株式会社ポ
ーラ/富士フイルムイメージング株式会社/株式会
社フレームマン
後 援 サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネ
スアイ/iza!/SANKEI EXPRESS

出品作品数 160点

東京都写真美術館の重点収集作家である土田ヒロミの個展として、収蔵作品の「俗神」「砂を数える」「ヒロシマ三部作」に加え、「パーティー」「新・砂を数える」「続・俗神」、セルフポートレイトの「Aging」を一堂に紹介した展覧会。1960年代終わりから写真家として本格的な活動を開始し、日本の土俗的な文化、ヒロシマ、高度経済成長、バブル経済などのテーマを通して、変貌する日本の姿を撮り続ける土田ヒロミ。「自己表現」と「徹底的な記録」によるこの写真家の創作活動の歩みと日本という国に対する問題意識に触れる機会とした。



文学の触覚

Haptic Literature - intersection of text/media art

期 間 平成19年12月15日(土)～平成20年2月17日(日)
53日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
支 援 文化庁
企画協力 講談社「群像」/株式会社NHKエンタープライズ
協 力 NTTサイバーソリューション研究所/NECディスプレイ
ソリューションズ株式会社/工作舎/任天堂株式会社
出品作品数 27点

本展では、純文学と視覚芸術との接点に焦点をあて、現代に活躍する文学作家+メディアアーティストのコラボレーションを行い、本来は読む人のイメージレーションにゆだねられる文学作品の世界を、多様な形で視覚化した。「テキストを耳で聴く/目で見る」「小説の中に描かれた風景の再現」「古典作品へのオマージュ」という三つのパートで展示を構成し、文化庁の若手芸術家支援プログラム、講談社『群像』/NHKエンタープライズの企画協力を得て小説家とアーティストによる新作プロジェクトを制作した。関連事業としてトークや特集刊行を行い、自動タイプライターを通して会場だけで読める匿名作家・舞城王太郎による新作や、手のひらでアニメーションになる穂村弘の短歌など、ユニークな「感じる文学」が新しい試みとして呈示された。

[出品作家]

川上弘美/児玉幸子/松浦寿輝/近森基+久納鏡子/平野啓一郎/中西泰人/穂村弘/石井陽子/舞城王太郎/dividual (遠藤拓己+ドミニクチェン+松山真也)/森村泰昌/森野和馬/大橋陽山/チームラボ ほか
[コレクション・資料展示]

書籍の「紙型」(協力=工作舎)/書籍「光と影のたいなる術」「自然魔術」「百科全書」/「DS文学全集」ほか



展覧会事業
自主企画展

マグナム・フォト創設60周年記念展
“TOKYO” マグナムが撮った東京
TOKYO Seen by MAGNUM Photographers

期 間 平成19年3月10日(土)～5月6日(日)
32日間(平成19年4月1日以降の開館日数)

主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
マグナム・フォト東京支社/株式会社NHK 情報
ネットワーク

後 援 米国大使館/ブリティッシュ・カウンシル/フラン
ス大使館

助 成 財団法人地域創造

協 力 株式会社INAX/株式会社ニコン ニコンカメラ販
売株式会社/日本ビュレット・バックード株式会
社/株式会社フレームマン

出品作品数 150点

1947年、ロバート・キャパの発案により写真家の権利と自由を守り、主張することを目的として発足された写真家集団、マグナム。本展では、マグナムの60周年記念展として、戦後日本を訪れた数多くのマグナムの写真家たちによって「東京」というメカシティがいかに写し撮られてきたかを、1950年代から2000年代までを6パートに区切り、「東京」をテーマとしたモノクロ・カラーによる写真・映像作品150点で展開した。



水越武写真展 大地への想い
Passion for the Earth Takeshi Mizukoshi Exhibition

期 間 平成19年5月12日(土)～7月1日(日) 44日間

巡 回 展 豊橋市美術博物館
(平成18年6月17日(土)～7月16日(日))
北海道立釧路芸術館
(平成18年9月16日(土)～11月15日(水))
札幌市写真ライブラリー
(平成19年9月20日(木)～10月8日(月))

主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後 援 社団法人 日本山岳会

協 賛 株式会社ニコン/ニコンカメラ販売株式会社/日本
製紙株式会社/富士フイルムイメージング株式会社

協 力 文化堂印刷株式会社/株式会社若波書店/株式会社
アイテム/株式会社写真弘社/株式会社クレヴィス

出品作品数 169点

「生態系からみた地球」というテーマに基づき、国内外の高峰や壮大な自然の営みを地球規模で撮り続ける水越武。写真美術館では、世界的に活躍する水越武の40年以上に及ぶ作家生活のなかから厳選した代表作品に、近作を加えた169点を展覧する写真展「水越武写真展 大地への想い」を開催した。水越の豊饒な写真世界を一望する本展覧会は、地球規模ですむ自然破壊への警告だけでなく、生命の多様性と美しさを呈する作品として、観るものに深い感動を与えた。



マーティン・パー写真展
“FASHION MAGAZINE”
 MARTIN PARR “FASHION MAGAZINE”

期 間 平成19年7月7日(土)～8月26日(日) 44日間
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／
 マグナム・フォト東京支社
協 賛 ポール・スミス
協 力 恵比寿ガーデンプレイス株式会社
出品作品数 125点

現代の英国を代表する写真家マーティン・パーの日本での初めての大規模な個展。ユニークなコンセプトとデザインによる写真集や、すぐれた写真集を一望する写真評論集などで知られるマーティン・パーだが、なかでも2005年に出版された『FASHION MAGAZINE』は、そのシンプルさ、華やかなイメージとその裏側、そして何よりも彼一流のアイロニーを効かせた代表作と評されている。本展は、写真集として先行発売された『FASHION MAGAZINE』を、そのまま展覧会用に再構成したオリジナル企画展で、新たに英国で撮り下ろされた新作も加えられた。また、あわせて日本限定の特別編集による『FASHION NEWSPAPER』も発行された。



鈴木理策：熊野、雪、桜
 Suzuki Risaku : kumano, yuki, sakura

期 間 平成19年9月1日(土)～10月21日(日)
 45日間
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／
 朝日新聞社
助 成 芸術文化振興基金／財団法人アサヒビール芸術文化財団
協 賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社／ラブリークィーン株式会社
協 力 熊野本宮大社／熊野速玉大社／熊野那智大社／ギャラリー小柳／有限会社フォトグラフィーズ・ラボラトリー
後 援 和歌山県／三重県
出品作品数 49点

国際的に活躍する中堅作家個展の第一弾として開催。第一回新進作家グループ展「風景論」(2002)でご紹介した鈴木理策(1963年和歌山県生まれ)の新作を中心とした展覧会。作家のライフワークとなる熊野、主に吉野桜から成る〈桜〉の最新作に加え、北海道十勝岳を中心とした雪をモチーフとした新シリーズ〈white〉を発表。時空を再構成するような展示空間を試みた。講演会2回、座談会3回開催し、さまざまな視点から写真を撮る、観るという写真行為について考察した。



東松照明：Tokyo曼陀羅
Tokyo Mandara : The World of Shomei Tomatsu

期 間 平成19年10月27日（土）～12月16日（日）
44日間
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／
読売新聞社東京本社／美術館連絡協議会
特別協賛 キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパ
ン株式会社
協 賛 ライオン／清水建設／大日本印刷／三菱商事
協 力 フォト・ギャラリー・インターナショナル
出品作品数 307点

本展は、「長崎マンダラ」「沖縄マンダラ」「京まんだら」「愛知曼陀羅」と撮影拠点をキーワードに、作品個別のテーマ性や時代性を解体して再構成をする「マンダラ写真展」シリーズの最後に位置するものである。1954～98年の間に東京を中心として千葉、神奈川など関東一円で撮影された作品に、東京を拠点として全国各地へと取材した作品を合わせ、未発表作品を含めて再構成し、写真家・東松照明の眼差しの原点と現在を浮かび上がらせた。

日本の新進作家VOL.6スタイル／アライヴ
Contemporary Art & Photography in Japan : STILL/ALIVE

期 間 平成19年12月22日（土）～平成20年2月20日（水）
49日間
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京
新聞
助 成 財団法人地域創造
協 賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社
協 力 キヤノン株式会社／富士ゼロックス株式会社／サッポ
ロビール株式会社
出品作品数 120点

「日本の新進作家」の第6回目となる本展は「現代人の生と時間、その表現」をテーマとして、写真・映像をメディアとして制作活動を行う30代のアーティスト、伊瀬聖子、大橋仁、田中功起、屋代敏博の4人を紹介するグループ展となった。4つの個性的な表現の世界を通して、複雑多様化する現代の生と時間、今ここを生きることの在りようを感覚的に描き出した。

東松照明 [Tokyo曼陀羅]
Tokyo Mandara : The World of Shomei Tomatsu

2007.10/27(土)～12/16(日)
東京都写真美術館 2階展示室
http://www.syabi.com

主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 読売新聞社東京本社 美術館連絡協議会
協賛：ライオン 清水建設 大日本印刷 三菱商事
協力：フォト・ギャラリー・インターナショナル

伊瀬聖子 | ISE SHIKO
大橋 仁 | OHASHI JIN
田中功起 | TANAKA KOKI
屋代敏博 | YASHIRO TOSHIHIRO

日本の新進作家VOL.6
スタイル | アライヴ
Contemporary Art & Photography in Japan : STILL/ALIVE

2007年12月22日(土)～2008年2月20日(水)
東京都写真美術館・2階展示室

東京都写真美術館 東京都写真美術館 東京都写真美術館
東京都写真美術館 東京都写真美術館 東京都写真美術館

「SYABI PRESENTS 映像をめぐる7夜」 SEVEN NIGHTS, SEVEN LIGHTS

期 間 平成19年2月21日(木)～2月24日(日)・28日(木)～3月1日(土) 7日間
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
協 力 株式会社タグチ

映像をめぐる発信・受容の形態が多様化する現状をふまえ、あえて連続ライブ・イベントという形式をとって、さまざまな角度から「映像」なるものの意味と可能性を考え、実験を楽しむ場の創造を企図した。地下1階展示室を会場に、7晩にわたり、多彩なゲストによるレクチャーや上映、ライブ、パフォーマンス、インスタレーションを、日替わりで実施。併せて関連映像作品及び資料のロビー展示も行った。試験的な機会として入場料金は無料とした。単独の事業としては前例のない意欲的な規模と内容で、ジャンル横断的な注目を集め、連日入場を制限する程定員を大幅に上回る来場者を迎えた。地下展示室空間の新しい使い方を提案するとともに映像部門の新たな展開をアピールした。



[第1夜] 「反復する壁」(上映+パフォーマンス+インスタレーション)

平成20年2月21日(木)
 ゲスト：足立智美、石田尚志
 参加人数：219人

[第2夜] 「広告と／の映像」(レクチャー+上映)

平成20年2月22日(金)
 ゲスト：小田桐昭
 参加人数：348人

[第3夜] 「映像の知覚」(上映+トーク+インスタレーション)

平成20年2月23日(土)
 ゲスト：飯村隆彦、豊嶋康子、大江直哉
 参加人数：202人

[第4夜] 「フリッカー・ナイト」(上映+トーク)

平成20年2月24日(日)
 ゲスト：西村智弘
 参加人数：187人

[第5夜] 「the Voice-over ～ 内なる映像」(パフォーマンス+インスタレーション)

平成20年2月28日(木)
 ゲスト：山川冬樹
 参加人数：281人

[第6夜] 「不在の映像・音の果て」(ライブ・インスタレーション)

平成20年2月29日(金)
 ゲスト：狩野志歩、渡邊ゆりひと、有馬純寿
 参加人数：224人

[第7夜] 「眼孔、斜に射す太陽」(映像・音響×ライブ演奏)

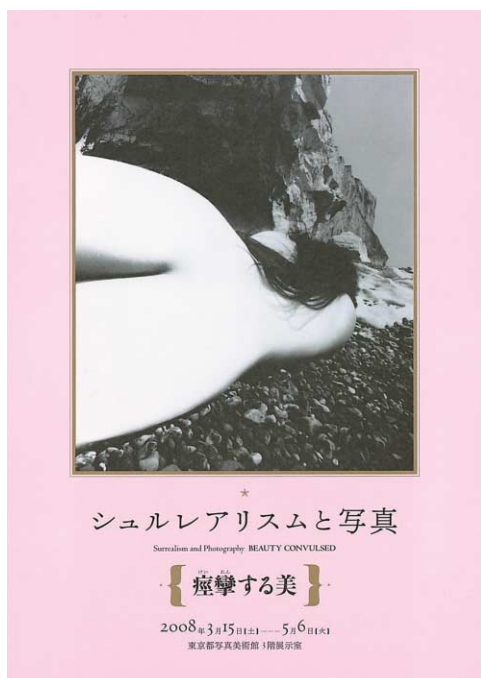
平成20年3月1日(土)
 ゲスト：生西康典、掛川康典(映像/音響編集)／山本精一(ギター)／角田俊也、音男(音源提供)
 参加人数：310人

ロビー展示入場者(7日間計)：516人

シュルレアリスムと写真 痙攣する美 Surrealism and Photography BEAUTY CONVULSED

期 間 平成20年3月15日（土）～平成20年5月6日（火）
14日間（平成20年3月31日までの開館日数）
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
助 成 読売新聞社／美術館連絡協議会
協 力 フォト・ギャラリー・インターナショナル／ツアイト・フォト・サロン
出品作品数 292点（書籍等含む）

1924年の活動開幕宣言以降、アンドレ・ブルトンを中心に多彩な表現世界を繰り広げた20世紀最大の芸術運動シュルレアリスム。それは、発祥地パリはもとより世界的な展開をみせ、純粹な視覚表現から広告、ファッションに至るまで人々の意識に深い影響を及ぼした。本展では、写真とシュルレアリスムの関係に注目しながら、前世紀における美術表現に革命をもたらしたユニークな視覚世界を紹介するとともに、この壮大な芸術潮流に新たな光を当てつつ、その多面的な活動の軌跡を展覧した。



展覧会事業
共催企画展

APAアワード2007
第35回社団法人日本広告写真家協会公募展
APA Award 2007

期 間 平成19年3月31日(土)～4月15日(日) 13日間(平成19年4月1日以降の開館日数)

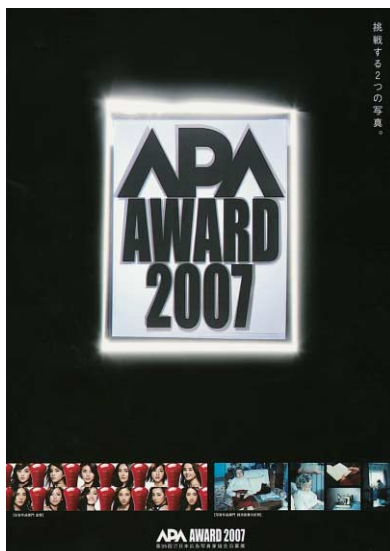
主 催 社団法人日本広告写真家協会

協 賛 加賀ハイテック株式会社/ニコンカメラ販売株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/エプソン販売株式会社/株式会社電通/富士フイルムイメージング株式会社/富士フイルムイメージング株式会社/株式会社資生堂/ペンタックス株式会社/オリンパスイメージング株式会社/トヨタ自動車株式会社/株式会社堀内カラー/株式会社フレームマン/ワールド印刷株式会社/株式会社アスカネット/凸版印刷株式会社/インタースタジオ/AC公共広告機構/PIE BOOKS

協 力 法人賛助会員各社

後 援 経済産業省/文化庁

応募作品の中から、厳正に審査され入選した約300点を一挙に展示した。今年度の公募展からプロの広告写真家によって撮影され、ディレクター・デザイナーを経て実際に印刷媒体に掲載・流通した作品による広告作品部門と、「愛」というテーマに添ったオリジナル写真をプロ・アマ問わず一般公募した写真部門の2部門となった。また会場内ではAPA公募展の歴代受賞作品を映像で振り返る「APA公募アーカイブ」を上映した。



佐渡—海底から原始の森へ：
天野尚写真展
Amano Takashi Photography Exhibition

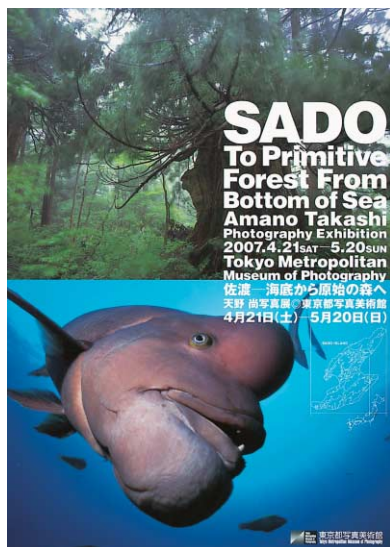
期 間 平成19年4月21日(土)～5月20日(日) 27日間

主 催 産経新聞社

共 催 東京都写真美術館

後 援 新潟県/新潟県教育委員会/佐渡市/佐渡市教育委員会/新潟大学/新潟日報社/BSN新潟放送/NST新潟総合テレビ/TeNYテレビ新潟/UX新潟テレビ21/FM新潟/FM PORT/東京新潟県人会

天野尚は10年以上にわたって佐渡を訪れ、水深40mの海底から海拔1,172mの最高峰金山山頂まで、5×7インチ判の大判カメラを中心に11×14インチ判や8×20インチ判の超大判カメラまでを駆使してこの佐渡島の様々な表情を撮影してきた。その過程で、地元島民にさえほとんど知られていない原生林や、屋久島にも劣らない巨大杉、絶滅に瀕している希少な山野草など、これまで誰も見たことのなかった佐渡の姿をとらえることができた。本展は、高度経済成長に伴い全国規模で国土の開発が進み、その代償に自然が失われていった日本各地に比べて、人々の暮らしのそばに今も身近な自然が残っている佐渡の原風景—「人」と「自然」との共生を135点の写真で紹介した。



第32回公募写真展
日本写真家協会展
JAPAN PROFESSIONAL PHOTOGRAPHERS

期 間 平成19年5月26日(土)～6月10日(日) 14日間

主 催 日本写真家協会

共 催 東京都写真美術館

後 援 文化庁

1974年に写真文化の振興を目的に、写真愛好家を対象として始まったフォトコンテストの受賞・入選作品展で、今回で32回をむかえる。文部科学大臣賞に神田和幸「夢飛行」、金賞に亀田満喜代「梅雨の晴れ間」、銀賞に山本シンセイ「時間と存在」、門木二郎「展望台の幻想」、銅賞に山内浩「満月の夜の船頭」、三浦啓貞「沖縄2006」、後藤芙美子「急げ!!」がそれぞれ受賞した。



世界報道写真展2007 WORLD PRESS PHOTO 2007

期 間 平成19年6月16日(土)～8月5日(日) 44日間
主 催 世界報道写真財団/朝日新聞社
共 協 東京都写真美術館
賛 助 キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/ティエヌティエクスプレス株式会社
協 力 グーグル株式会社
後 援 オランダ王国大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会

第50回世界報道写真コンテスト2007は、124カ国4,460人の写真家から78,083点の写真が寄せられ、2週間にわたる審査の結果選出された延べ61人191点の作品が世界各国で展示された。今年は大賞にスเปนサー・プラット「破壊された南バイルートの町を車で通り抜ける若者グループ」、その他の部門でQ.サカマキ氏が取材したスリランカのバス襲撃事件などが選ばれた。東京の日常を取材で受賞したデーヴィッド・グッデンフェルダ氏の講演会も開催。

第18回日本写真作家協会展 第5回日本写真作家協会公募展 Japan Photographers Association's Exhibition

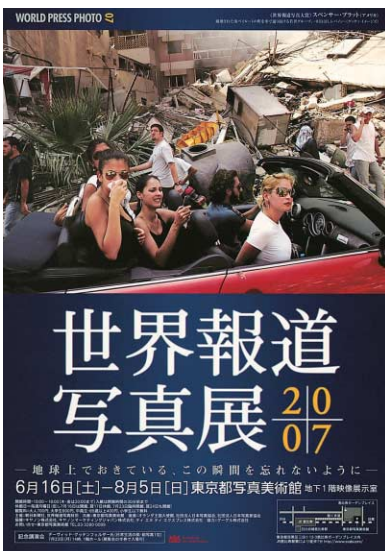
期 間 平成19年10月13日(土)～10月28日(日) 14日間
主 催 日本写真作家協会
協 力 東京都写真美術館

日本写真作家協会の会員が出展する作品と、公募展の入賞・入選作品の二つの作品展を展示。本年度は会員による作品217点と、全国からの応募作品2,173点の中から入賞・入選した163点を加え、全380点を展示。大阪・広島にも巡回した。

写真新世紀 東京展2007 新しい写真表現に挑戦するコンテストの受賞作品展 New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2007

期 間 平成19年11月3日(土)～11月25日(日) 20日間
主 催 キヤノン株式会社
共 協 東京都写真美術館

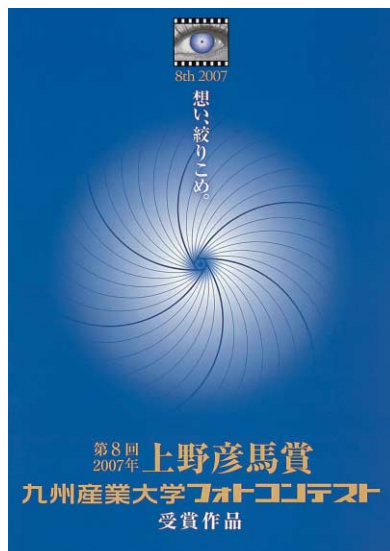
キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。第30回公募作品による本展では応募人数1,277人のなかから選ばれた優秀賞受賞者6名、佳作受賞者27名の受賞作品を展示した。また同時に前年度グランプリに選ばれた高木こずえによる個展を開催した。関連イベントとして11月9日(金)には1階ホールにて「公開審査会」(審査員:荒木経惟、飯沢耕太郎、南條史生、森山大道、榎本了彦、具本昌)および「ゲスト審査員によるトークショー」(出演:具本昌、飯沢耕太郎)を開催した。



第8回九州産業大学フォトコンテスト受賞作品
上野彦馬賞写真展
UENO HIKOMA AWARD Exhibition

会 期 平成19年12月1日(土)～12月9日(日) 8日間
主 催 毎日新聞社/九州産業大学
後 援 文化庁/日本写真芸術学会/東京都写真美術館
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/コニカミノルタホールディングス株式会社/サイバーグラフィックス株式会社/株式会社ニコン/富士フイルムイメージング株式会社/富士フイルムイメージテック株式会社/エプソン販売株式会社

日本における写真の開祖上野彦馬の名前を冠する本コンテストは、九産大の建学40周年を記念して2000年に創設され、「出てこい現在の彦馬たち」を合い言葉に第8回を迎えた。今年は過去最多の4,067点の応募があり、大賞の上野彦馬賞に東京のフォトジャーナリスト黒川大助、高校生・中学生の部のジュニア大賞に愛媛県の山下拓郎が選ばれた。本展では受賞作101点のほかに上野彦馬が撮った古写真20点なども展示された。



APAアワード2008
第36回社団法人日本広告写真家協会公募展
APA Award 2008

期 間 平成20年3月8日(土)～3月23日(日) 14日間
主 催 社団法人日本広告写真家協会
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/株式会社ニコンイメージングジャパン/富士フイルムイメージング株式会社/加賀ハイテック株式会社/株式会社電通/トヨタ自動車株式会社/株式会社博報堂/オリンパスイメージング株式会社/株式会社フレームマン/株式会社堀内カラー/富士フイルムイメージテック株式会社/インタースタジオ/エプソン販売株式会社/ワールド印刷株式会社/株式会社玄光社/AC公共広告機構/凸版印刷株式会社/PIE BOOKS
協 力 法人賛助会員各社
後 援 経済産業省/文化庁

応募作品の中から、厳正に審査され入選した約300点を一挙に展示した。プロの広告写真家によって撮影され、ディレクター・デザイナーを経て実際に印刷媒体に掲載・流通した作品による広告作品部門と、「サプライズ」というテーマに添ったオリジナル写真をプロ・アマ問わず一般公募した写真部門の2部門となった。



知られざる鬼才
マリオ・ジャコメッリ展
Mario Giacomelli

期 間 平成20年3月15日(土)～5月6日(日) 14日間(平成20年3月31日までの開館日数)
主 催 株式会社カンパセーションアンドカムパニー/株式会社ニューアートディフュージョン
共 催 東京都写真美術館
後 援 イタリア文化会館
協 力 エキサイト株式会社/株式会社大伸社

1950年代から2000年に生涯を閉じるまで、写真を撮り続けたイタリアの写真家マリオ・ジャコメッリの日本初個展。「ホスピス」「スカンノ」「若き司祭たち」「風景」などの代表シリーズに加え、最晩年に手がけていた作品を展示。アマチュアの姿勢を貫いた作家の生まれ育った土地や一地方に腰を据えてじっくりとつくり出された作品は、生と死をテーマにした詩情溢れるものであり、近年再評価されている。

